グローバル現場探訪

地産地消型ものづくり

新日鉄住金のブリキ事業

新日鉄住金は、日本から輸出されるブリキの70%を超えるシェアを持つ、 世界最大級のブリキメーカーだ。新興国の人口増と生活水準向上に伴い、 飲料缶や食缶などの素材であるブリキ(鋼板)の需要は世界的に拡大を続けている。 グローバルプレーヤーとして、新日鉄住金は国内に3拠点、海外に4拠点を持ち、 高品質なブリキ製品の供給を通じて世界の経済発展に貢献している。



名古屋製鉄所

極めて薄い鋼板による缶の軽量化や、樹脂フィルムを 表面に被覆させたラミネート鋼板による缶の塗装工程 省略を可能にし、環境負荷軽減に貢献している。



広畑製鉄所

1959 (昭和34)年に日本で初めてブリキ用連続焼鈍 ラインを導入。78年には環境問題に対応する電気ブリ キ製造システムを世界で初めて開発し工業化。 日本発 のオリジナル技術として高く評価された。



八幡製鉄所

1923(大正12)年、官営製鉄所(現在の八幡製鉄所) でドイツ人技師の指導のもと日本で初のブリキ製造を 開始した。現在も薄くて強く、厳しい成形加工に耐え るブリキを供給。



インドネシア ラティヌサ (PT. Pelat Timah Nusantara Tbk)

1982年国営製鉄会社クラカタウ社の子会社として設立。 2009年に新日鉄(現在の新日鉄住金)連結子会社となる。 インドネシア唯一の容器用鋼板の製造・販売会社。

こうしたブリキを生産できる鉄鋼メ 達すると見込まれている。 (年培ってきた技術力を活かして、 加工できる高い機能性が求められている の安全性を確保する高い品質と、 料缶向け 世界でも限られている。 ・2ミリ L界のブリキ需要は近年、 を中心に年間約2~3%で伸 年には1700 前後の極薄で強度を保ちなが のブリキは、 ニーズに応える世界最大級 優れた耐久性や 展開を推 万トン規模に 中でも 新日鉄住金は

制を構

の食卓を守っていく。の衛生管理の一翼を担い、これからも世界の衛生管理の一翼を担い、これからも世界

HACCP 認証を取得世界の食卓を守るために

品安全性に関する国際的な基準である 造されているか常に監視記録している。 めの重要管理を定め、 その結果に基づいて安全な製品をつくるた 工程で発生する恐れのある危害を分析し チェーン)の観点から、 HACCP(ハサップ)の認証を、 しては日本で初めて取得した。 (原料の受け入れ、製造、 名古屋・広畑・八幡製鉄所では、 「食の安全」に関する危機意識の高まりに 新日鉄住金は食品産業連鎖(フード フードチェーン全体で 管理手順どおりに製 素材メーカーとし 出荷のすべての 鉄鋼業と





中国 WIN スチール (武鋼新日鉄(武漢)ブリキ有限公司)

2011年設立、13年操業開始。日本国内の最新鋭設備と同等の 設備を導入し、高品質のブリキとブリキ原板を生産。PATINと 共に中国の旺盛な需要に応える。



中国 PATIN (広州太平洋馬口鉄有限公司)

1994年設立、97年操業開始。累計200万トンを超える生産 出荷実績を持つ中国最大級のメーカーに成長し、年々拡大する 中国のブリキ需要に応える。





タイ STP (Siam Tinplate Co., Ltd.)

1988年設立、92年操業開始。"Kitchen of the world"を合言葉とする政策を背景に、食品産業の一大輸出拠点であるタイで、厳しい品質要求やきめ細かなデリバリー要請に応えている。